

海外勤務に挑戦すべし

1953年卒で傘寿を迎えているが、岡山大学同窓会会長を仰せつかっていることもあり、一言申し述べさせていただきます。

最近、経営者の方々から「入社してくる若者で心療内科の世話になる者が増えて困惑している」との話を聞くことが多い。

学生時代にパソコンばかりにかじりついていて、人との付き合い、そこから生まれる友情、恋愛、尊敬、嫉妬等の体験、そしてそれを制御する社会的技法を習得することもなく社会人になっているのではないか。だから入社後上司に厳しい指導を受けると、受け止めるクッションもなく、聞き流すやり方もままならず、全身で対応して神経をすり減らすこととなる。同僚との付き合いもうまく行かない。一杯どうかと誘われても、断ることが多く段々誘われなくなり結局一人で悩み苦しむこととなる。部下もうまくリードできないというわけだ。

いかに優秀であってもこれでは、社会人としてキャリアパスに乗ることは出来ない。人との縁を大事にし堅忍不拔、質実剛健の旧制六高の伝統が生きている岡大では、このような学生は、少ないのではないかと楽観しているが。

グローバル時代に企業が求める人材は、常に前向き思考で、進んで海外勤務を志願し、異文化に溶け込みながら独自性を発揮でき、何よりも心身共に健康である若者である。少し具体的にいえば、＜1＞構想力、実行力、包容力を備えたリーダー適格の人、＜2＞一芸に秀でた人、たとえばベトナム語がしゃべれる、文明の恩恵の少ない国での生活に耐えることが出来る、＜3＞イノベーションに参加できる人である。

大学も、外国の大学との交流を一層活発化し、本学学生の派遣、外国人留学生の受け入れを組織的に進め環境整備を図る必要がある。また、学生諸君は、活発な活動を開始している岡大東京サテライトオフィスを有効に活用して、企業の求人情報の収集、OBとの接触等を進めることを勧める。

T P Pへの参加が議論される時代となった。国と国との間だけでなく、企業間、大学間、学生間の競争も激化することは明らかである。乗り遅れないようにするだけでなく、時代を先取りする先見性と勇気が求められている。現役諸君の一層の奮起を期待する。